

# まえがき

「音楽が好きで、ギターや、ピアノである程度簡単な曲なら弾ける様になったんだけど、オリジナル曲を作りたい！」

「吹奏楽部で練習していて、ソロパートやメロディーはわかるけど、自分が今、どここのパートを演奏していて、では、それを踏まえてどう演奏すればいいんだろう？」

「自作曲が、なぜかいつもと同じ感じになってしまう。それに、なんかいつもあのアーティストと同じ様な曲になってしまう。もっと、オリジナリティーを出したい…。」

「作曲」は才能ある芸術家の閃きだったり、幸運にも何かのキッカケで「舞い降りてきた」モノを形にする事なのではないでしょうか？

ま、それも間違いではないでしょう。でもそれでは、「作曲」は私の様な凡人にとって、全く無縁の世界という事になってしまいますし、「舞い降りてくる」のを待っていても、生きているうちに訪れる保証はありません…。

では、何故、私は荒唐無稽にもこの様な「まえがき」を書いているのでしょうか？

実は、「作曲」は楽器の練習よりも、歌ったり踊ったりよりも、誰でも気軽にできて、体力もそれほど必要じゃなく、究極、紙と鉛筆だけ有れば、お金もかけずに楽しめるんです！

そんな、「作曲」の無限の楽しみと喜びを、僭越ながらより多くの皆様にご紹介したい！

そんな想いからの『MUSIK LAND Educational Curriculum』より[Composer Starter Guide]です。

最初にお断りしておきますが、このテキストを習読したからといって、いきなり交響曲や壮大な劇伴音楽が書ける様になるわけではありません。例えるなら、F1パイロットを目指すにも、まずは免許とらなきゃね！っというところでしょうか？

でも、「自動車を運転する」という楽しさは実感できるはずですよ。

そして上述の、音楽に対する意欲や疑問に対する解決の糸口にもなるでしょう。

ようこそ「作曲」の世界へ！ 一緒に楽しみましょう！！

# もくじ

01	メジャースケールとは？ ＜5度圏①＞	.....	1
02	音名と音階固有音 ＜5度圏②＞	.....	3
03	コードの機能 ＜3和音と主要3和音＞	.....	5
04	コードワーク① ＜II→Vの動き＞	.....	7
05	メロディーの構造① ＜メロディーとハーモニー＞	.....	9
06	メロディーの構造②-1	.....	11
07	メロディーの構造②-2 ＜動機を構成する『素材』＞	.....	12
08	コードワーク②-1	.....	14
09	コードワーク②-2 ＜基本形と転回形＞	.....	15
10	マイナースケールとは？ ＜3種のマイナースケール＞	.....	17
11	平行調 ＜平行調の活用＞	.....	19
12	曲（歌モノ）の構成 ＜J-pop風楽曲制作＞	.....	21

# 08 コードワーク②-1

今までご紹介してきた I、II、IV、V、VI 5 種類のコードに、更に音階の音を 1 個飛ばして、もう一音、音を足したコードを 7th (セブンス) と言い、II<sub>7</sub> のように書きます。

図1

C: I<sub>7</sub>      II<sub>7</sub>      IV<sub>7</sub>      V<sub>7</sub>      VI<sub>7</sub>

→コードの一番下の音から数えて7番目 (ドレミ・・シ) の音

そして、例えば I<sub>7</sub> のコードの構成音を入れ替えると、1 つのコードで 4 つのヴァリエーションが出来ます。

図2

基本形      転回形

音にして聴いてみると、構成音は同じなのにそれぞれ違って響きます。このように構成音を入れ替えたコードを **転回形** といい、音階の音を 1 個飛ばして重ねた形を **基本形** といいます。

## コードの機能

I、II、IV、V、VI の機能 (T、D、S) や進行の可能性は構成音が増えても転回形になっても今まで通りなんら変わりません。

では、まずは転回形を活用した簡単な例を見てみましょう。

譜例7 ma8

(構成音下から) ソシレをシレソに      1 オクターブ下に      ファラドをラドファに

譜例7の上段は基本形のみを用いてコードをつないでいったモノ。コードの最低音の動きだけ見ても、(ド→ソ→ラ→ファ) となっているが、下段のように転回形をうまく使うとコードを滑らかに繋ぐことが出来る。ただし、上例のようにしなければならないというわけではなく、あくまで手段の一つである。

# # 実践課題



(1) 例にならって、コードの基本形を書いてください。

① (例)                      ②                      ③                      ④                      ⑤

⑥                      ⑦                      ⑧                      ⑨                      ⑩

(2) 次の名曲の一部を指示に従って転回形を使い、原曲と同じ感じに近づけましょう。

♪ J.Bach / C.Gounod : Ave Maria冒頭

【指示】コードの最低音が(ド)→ド→シ→ド→ドとあまり動かないように並べる

ma89\_1

C : I                      II 7                      V 7                      I                      VI

♪ A Dvořák : 交響曲第9番 第2楽章より抜粋 (家路のメロディー後半)

【指示】3小節目、コードの最低音がレ♭→ド→シ♭→ラ♭と音階のように並べる  
(四分音符でコード4つ配置)

ma89\_2

D♭ : I                      V                      VI                      VI 7                      ♭                      ♭

## <基本形と転回形>

基本形の響きと転回形の響き、比べてみていかがでしょう？構成音は一緒なのに基本形に比べて転回形の響きはいずれも何か安定感の無い、ふわふわした浮遊感が感じられます。

その浮遊感を逆に生かして、転回形はコード間を繋ぐのによく利用されます。曲の最初や最後に転回形を利用するのはあまり適しません。

もちろんその転回形の性質をうまく利用したりして、近代フランスの印象主義の作曲家等はそれまでになかった音楽を生み出しています。まさに「物は使いよう」ですね。

Column